

オオムラサキ 27回目 コラム 2020-3月号

兵庫丹波オオムラサキの会 会長 足立 隆昭

NPO こどもとむしの会で初蝶調査をしています。3月3日奈良県橿原市耳成山西麓で飛翔するモンシロチョウ🦋が報告されました。

2月2日朝日新聞社説欄の記事を紹介します。



先に3大新聞の、「オオムラサキをはじめ里山の生き物が絶滅危惧種に相当するレベルに減少している」記事を紹介しました。今回は国土の40%を占め生物多様性のゆりかごになっている里地・里山で食物連鎖の要であるチョウの減少は生物多様性が損なわれ生態系のバランスが崩れ、人間もそのしっぺ返しを受ける可能性をチョウが示唆していると説いています。チョウは環境保全の指標生物です。

オオムラサキは1頭のメスが500~600個を産卵しその内の1~2%が蝶(成虫)に羽化できると言われています。

すなわち1頭のメスから5~12頭程度しか蝶になれないということです。

98%はどうなるのでしょうか？ その大部分は他の生き物の命になるのです。

蝶(チョウ)は食物連鎖の要です。



オオムラサキの卵に産卵するコバチ



オオムラサキの蛹(さなぎ)を食するムカデ



オオムラサキの成虫を食するカエル



オオムラサキの蛹を食するアリ



オオムラサキの成虫を捕獲したクモ



もし虫たちが絶滅すれば
自然環境や生き物の頂点
に立つ人の生活環境は
どのようになるのでしょうか？
考えて見ましょう。